

# 四日市西部編

## 四日市散策マップ

近鉄伊勢川島駅

### 川島～桜～水沢

発行／(一社)四日市観光協会  
 〒510-0075  
 三重県四日市市安島一丁目1-56  
 TEL.059-357-0381  
<http://kanko-yokkaichi.com/>  
 E-mail:kanko@m3.cty-net.ne.jp  
 2025年10月第6版発行



**14 伊勢三郎首塚**  
 源義経の四天王のひとり、伊勢三郎の首を家来がこの場所へ埋めたといわれています。また、三郎の子孫、河島がこの地に居住していたことから「川島」の地名になったと言われています。



**1 和泉式部の井戸**  
 平安中期の歌人として名高い和泉式部。顔のあざにコンプレックスを抱いていたが、夢のお告げでこの水で洗顔したところ、あざが消えたという伝承が残っている。



**2 智積廃寺跡**  
 道路造成の際発見された四日市最古の仏教寺院跡です。飛鳥時代後半から奈良時代初頭に創建され、約100年後の奈良時代末期に廃絶しました。



**3 メダカの池(ビオトープ)**  
 休耕田を整備して大小4つの池からなっており、今では約千匹のメダカが生息しています。また、メダカとともに色々な昆虫が共存しています。



**4 一吹山**  
 戦国時代、今の桜地内にあった「佐倉城」の城主小林重則が関一族の峯盛定を迎え撃った際に、砦を築き戦場となったのがこの場所です。今は小さな公園となり、春は桜がとともきれいです。



**5 シデコブシ自生地(桜町)**  
 シデコブシは、当地のほか尾張、三河、美濃の伊勢周辺地域にしか自生していない絶滅危惧種で、昭和57年に市の天然記念物に指定されました。毎年4月の始め頃に白色から淡い紅色をした花をつけます。



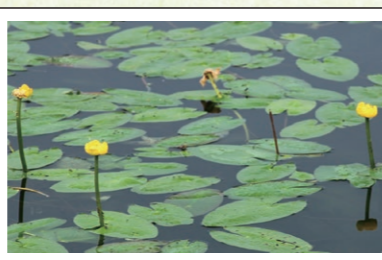
**16 ビオトープ(別山二号公園)**  
 湧き水を利用し、地域の住民が大切に育てたほたるが飛び交う場所として親しまれています。



**12 鹿化川千本桜**  
 川沿いに全長5キロに及ぶ桜並木は「千本桜」として有名です。



**11 シデコブシ自生地(川島町)**  
 ビオトープのそばの湿地で約4mの木が30株ほど群生しているのを見ることができます。県の天然記念物に指定されています。



**10 ヒメコウホネ**  
 和無田池では毎年6月下旬ごろ、絶滅危惧種とされるスイレン科の「ヒメコウホネ(姫河骨)」が可憐な花を咲かせている。



**9 神明社の大樟**  
 四日市市教育委員会提供  
 拜殿前に樹齢800年以上で高さ約24mの立派な樟があり、市の天然記念物に指定されています。四日市では昭和47年に樟の木を「市の木」に選定しています。



**6 智積養水**  
 水不足に悩んだこの地の人々が、隣の菰野町の「蟹池」から水をもらうために江戸時代に敷設された灌漑用水です。昭和60年には環境庁の名水百選に選ばれ、鯉の泳ぐ清流は地域住民の誇りとなっています。



**7 酒造業**  
 名水百選に選ばれた「智積養水」が流れるこの地では水のおいしさを生かして地酒を造っている蔵元がたくさんあります。



**8 引石(西勝寺に保存)**  
 江戸時代、矢合川は生水川(しょうずがわ)と呼ばれ、石造りの生水橋がかかっていましたが、川が増水すると水が橋の上を流れ危険でした。そこで一対の「引石」を川の両側に建てて縄をそれぞれに渡し、増水時にはこの縄を手すりとして橋を渡ったそうです。



桜地区市民センター

約3.8km

約5km

宮妻峡

水沢地区市民センター

桜地区市民センター



**常願寺**  
 この第9世住職であった中川教宏が、茶産地である京都の宇治を視察し産業としての茶業の振興を思い立ち、茶の実を蒔いて

**一乗寺**  
 その昔、最澄が全国布教の途中に水沢に立ち寄り創造したと言われています。またこの地の茶業は、当時の住職玄庵が先代の住職から空海直伝の製茶法を受け継いで唐の茶種を植えたことが始まりと伝えられています。

**足見田神社**  
 「足見田神社」は伊勢国三重郡にあった五つの郷のうちひとつ「葦田郷(あしみたのごう)」に由来する名前とされています。春には水沢茶の発祥地とされている冠山茶の木原より新茶が神社に献茶され、夏には四日市市無形文化財に指定されている「お諏訪おどり」が境内において行われます。



もみじ谷